

学習発表会への取り組み 2004 昴 小学校4年時

自閉症の児童を学習発表会での劇、合奏、総合の時間の発表に他児童と共に取り組ませる。

学習発表会へ取り組ませる上で該当児童のできること・できないこと

- 1 簡単なものならセリフや音楽のパートを覚えることはできる
- 2 皆と共にあわせて演奏することが出来る時と出来ないときがある
- 3 皆がやっている劇の中に参加できない時がある（その場にいられない）
- 4 皆の中でセリフが言える時と言えない時がある

取り組ませるための作戦Ⅰ

- 劇**
- 1 各場（3場）で1～2個の簡単なセリフを言わせる
 - 2 同じセリフを言う（黒子のような）補助の子どもをつける
 - 3 「スーパーマリオ」に熱中していて、自分は「マリオ」と決めこんでいるのを利用し、体育の時間にマリオ帽を作って課題に取り組ませようとしたアイデアを取り入れ、役名を“マリオ”とし帽子をかぶらせて参加への興味を持たせる
- 音楽**
- 1 得意なリズム楽器（太鼓）担当とする
 - 2 個別指導の時間に個別練習を相当時間数してきている
 - 3 見やすい楽譜を準備する
 - 4 他児童の演奏がまとまってきたところで、全体へ入れる
 - 5 発表当日までの練習スケジュール表を作り、練習がすんだらシールを貼って本番が近づくことへ心の準備をさせる

総合の時間の発表

ステージ上でしゃべらせるのは難しいと思われるので、ソデでプレゼンテーションのコンピューターの操作をさせる

- 全体**
- 学習発表会に参加する旨のソーシャルストーリーを用意し、前もって何度か書かせ、本番への心の準備をさせる





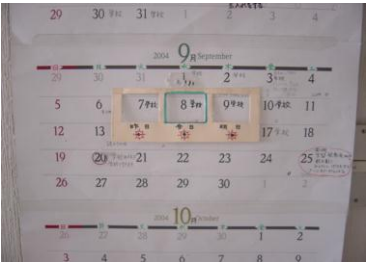
取り組ませるための作戦Ⅱ

- 劇**
- 1 セリフ担当の児童の写真入り台本を作る
 - 2 ここは必ず入れるという場面に絞る
 - ・皆の中心に配置する
 - ・（昴がすでにTVから覚えていて言える自信のある）「じゅげむ」を言わせる
 - ・他児童からの「マリオコール」を言う合図とする（コールされるのが好き）
 - ・帽子はこの場面のための合図・参加することへのご褒美としダラダラかぶらせない
 - ・相手役もこの場面になったら特別に“ワリオ”（スーパーマリオの悪役）の衣装に変える
- 音楽**
- ステージの上では演奏したくないようなのでステージの下で演奏させることをよしとする


月	学校の取り組み	昴の反応	家での取り組みと意見
8	<p>劇 台本を生徒に配り、リハーサルを始める。 1 昴には各場に簡単なセリフ1～2個言わせる予定で個別指導を始める 2 同じセリフをいう補助の生徒をつけておく 3 役名を“マリオ”とし、マリオ帽を作っ つかぶせた</p> <p>音楽 1 発表当日までの練習スケジュール表を作る 2 個人練習の時間を多くとる 3 何箇所か入るポイントがあるのでそこは補助の先生が指示をする</p>	<p>マリオの帽子が気に入りいつでもかぶっている 皆と一緒にの場に参加しセリフが言えるときと言えない時がある 出る場が分散してどこで出ているのか理解できない様子 他の遊びの時“皆の輪”の中心に入りたがり、それに対して児童から「昴君はみんなの真ん中に入るのが好きなんだよ」という発言があった。</p>	<p>カレンダーの発表当日の日に「学習発表会、劇をする、皆と演奏をする」など書いておき、時々確認させる</p> <p>劇のセリフの練習</p>
9	<p>劇 1 セリフ担当の児童の写真入り台本を作る 2 ここは必ず入れるという場面に絞る ・ 皆の中心に配置する ・ 分散したセリフと補助生徒は止め（昴がすでにTVから覚えていて言える自信のある）「じゅげむ」を一人で言わせることにする ・ 他児童からの「マリオコール」を言う合図とする（コールされるのが好きなので） ・ 帽子はこの場面のための衣装・合図とする ・ 相手役もこの場面になったら特別に“ワリオ”（スーパーマリオの悪役）の衣装に変える 3（写真入り）ソーシャルストーリーを何度か書かせる</p> <p>音楽 1 ステージの上では演奏したくないようなのでステージの下で演奏させることにする</p>	<p>太鼓を叩くのにステージの上では叩きたくない</p>	<p>1 セリフを言う児童の写真が入った台本があると誰がセリフを言うかわかり進行状況がわかりやすく安心して取り組めるのでは 2 セリフ（出る場）が分散して集中しづらいのでは 一箇所「ここは絶対に出す」という場に絞ったほうがよいのでは 3 帽子はダラダラかぶせるより、劇でかぶれるご褒美または、かぶったら劇に出るという合図として利用してはどうか 4 みんなの中心に入ることが好きだということなら、立たせる位置を列の中でなく皆の輪の中心になるように配置したらどうだろうか と提案をする</p> <p>ソーシャル・ストーリーを書かせる</p> <p>スーパーマリオ風の衣装を用意する 当日朝、ソーシャル・ストーリーを書かせる</p>

	プログラム	昴の活動	当日の作戦	昴の行動
9:15	あいさつ 英語発表	見る・聞く 見る・聞く	席に静かについていさせるための絵指示カード・できたことの確認カード（ご褒美シール付き）位置シールを用意し、補助の先生が確認指示していく	座席についていられた
9:20	スペイン語発表 1, 2, 5年生	見る・聞く		劇の間中ステージ上の決められたいすに座っていることができ、セリフは、一回目小さく聞こえにくかったのを言い直すこともできた。
9:25	3, 4, 5年生	ステージでセリフを言う	セリフは好きな色の名前 一番端のいすに座ってセリフをいう	
9:35	総合の時間の 発表 環境チーム	コンピューター で、パワーポイントの画面操作 をする	担任の先生がついて、切り替え 時の指示を出す	担当時間中、先生の指示でコンピューター操作ができた 画面が切り替わるのが面白くてか、早く替えてみたいのを待たなくてはいけないからか緊張が長く続いたからか、その場での独り言、ピョンピョン飛び跳ねる行動が目立った
	学校交流チーム 国際協力チーム	見る・聞く	騒いだ姿をデジカメで撮りその 場で見せると「いけないこと」と分かっているようで その瞬間は効き目があった リラクゼーショングッズを渡すと、少しおさまった	座席にはいられたが、大きな声や、独り言が頻発した
	休憩	可能なら、生活 科発表のゲーム に参加する	息抜きの時間とする	ブランクをしていた
10:15	音楽発表	宮崎駿メドレー とラデツキー行 進曲の大太鼓パ ートを叩く	ステージ下で叩いてよい 抜ける曲と入る曲があるので、 入るポイントを補助に先生に 指示してもらおう 抜ける曲の時はいすに座って いてよい	ほぼできた 自分が抜ける曲ではいすに座 って待っていた。
11:15	全校劇	ステージ上に皆 といること 自分のセリフ (じゅげむ)を 言う	位置シールを置く マリオの衣装を着る ワリオの登場 セリフを言う合図の「マリオコ ール」と「スバちゃん、じゅげ むだよ」という児童の呼びかけ 言い終わった後の歓声	劇の始まった頃は声をあげな がらステージの下を行ったり 来たりしていた。途中、客席 の父親に話し掛けに出向く場 面もあったが、おおむねステ ージ端に座っていた 自分のセリフのある2場では ステージ中央に座っていられ 自分の番に「じゅげむ」をい うことができた
11:35				最後まで、劇に参加できた



月	学校の取り組み	昴の反応	家庭での取り組み
---	---------	------	----------






8	<p>リハーサルを始める</p> <p>マリオの帽子</p>   	<p>いつでも どこでもかぶりたいマリオの帽子</p> 	<p>カレンダーに記入</p> 
---	--	--	---






8	<p>個人練習</p> <p>写真入り台本</p>  		
---	---	--	---

9	<p>皆の輪の中でセリフを言う</p> 	<p>ステージ上でやるのは嫌</p> 	<p>マリオの衣装</p> 
---	--	---	---

9	<p>スペイン語劇イスに座ってセリフを言う</p> 	<p>ステージの下で叩く</p> 	<p>マリオの衣装</p> 
---	---	--	---

9	<p>ワリオも出てくる</p> 	<p>マリオの衣装</p> 
---	---	---

当	<p>当日のスケジュール表と指示カード</p>   	<p>リラクゼーショングッズ</p> 	<p>補助の先生の指示</p> 
---	---	---	---

日	<p>当日のスケジュール表と指示カード</p>   	<p>リラクゼーショングッズ</p> 	<p>補助の先生の指示</p> 
---	---	---	---

学習発表会への取り組み 2005 昴小学校5年時

目標

自閉症の児童を学習発表会での劇、合奏を他児童と共に発表ができる。発表のない時は自分の席について静かに鑑賞できる。

学習発表会へ取り組ませる上で該当児童のできること・できないこと

- 1 簡単なものならセリフや音楽のパートを覚えることはできる
- 2 リズム打ちは、少々複雑なものも的確に打てる。
- 3 皆と共にあわせて演奏することが出来る時と出来ないときがある
- 4 皆がやっている劇の中に参加できない時がある（その場にいられない）
- 5 皆の中でセリフが言える時と言えない時がある

取り組ませるための作戦Ⅰ

和太鼓

- 1 出ずっぱりでないシンバルのパートを担当する
- 2 皆の演奏ビデオを見て、個人練習をする

劇

- 1 効果音担当 キーボード演奏に合わせて、打楽器（シンバル、ウッドブロック大太鼓）をたたく

音楽

- 1 得意なリズム楽器（太鼓）担当とする
- 2 個別指導の時間に個別練習を相当時間数してきている
- 3 見やすい楽譜を準備する
- 4 他児童の演奏がまとまってきたところで、全体へ入れる
- 5 昨年演奏のできた舞台下の同じ位置で演奏させる

全体

学習発表会に参加する旨のソーシャルストーリーを用意し、前もって何度か書かせ、本番への心の準備をさせる

鑑賞態度

- 1 会場での行動を細かく書いたスケジュール表を用意する
- 2 いい行動と悪い行動を書いたカード（レッドカード）を用意する
- 3 興奮したときのためのリラクゼーショングッズとしてお気に入りタオルを用意する

取り組ませるための作戦Ⅱ

和太鼓

シンバルを叩かない部分をどうしているか、分散している自分の出番をどうわからせるかが問題なので、

- 1 演奏全体の部分別色分け時間スケールを作成し、入るポイントを示す
- 2 シンバル演奏のないところも違う打楽器を叩かせるようにし、楽器の種類でどの部分を演奏しているのかわかるようにする

劇

効果音が入るところが分散していてわかりにくく、全編通して集中してはいけなかったので

- 1 劇の場面の絵（花さき山だったので、絵本から絵を取り込んで）と、セリフをクリックするとその場にあわせて変わっていくパワーポイント台本を作成し、それを見ながら入るポイントをつかむ

月	学校の取り組み	昴の反応	家での取り組みと提案
8	全体 学習発表会までのスケジュール表を作成 和太鼓 シンバルのリズムの個人練習を始める 劇 台本を生徒に配り、各自読む 効果音の個人練習 音楽 見やすい楽譜を準備する 個人練習の時間を多くとる	他の子供と同じ台本だと、読めない漢字やト書きにとまどう	<ul style="list-style-type: none"> ・カレンダーの発表当日の日に「学習発表会、劇をする、皆と演奏をする」など書いておき、時々確認させる ・スケジュール表を貼る ・ゲームがもらえるポイントカードを作成し、毎日シールを貼っていく ・劇の台本や絵本を音読教材として読む
	和太鼓 ビデオを見ながら個人練習 劇 効果音の個人練習	出る場が分散していてどこで出ていいのか理解できない様子 全体練習の中に入れない	台本の読めない字にルビをふり、ト書きは消して綴じてあるのをとって一枚台本に作り変える
	和太鼓 ・全体時間スケールを用い、補助が入るポイントを指示 劇 ・コンピューター使用のため、当初の位(キーボード)の横を、舞台ソデに変更し、コンピューターを置き、座って操作できるようにする		和太鼓 ・全体時間スケール作成 ・演奏のない部分も何かさせた方がよいと提案し、他打楽器を準備 劇 ・入るポイントをわかりやすくするためと劇全編で集中していただけるように、パワーポイントで台本を作る
	全体 ・(写真入り) ソーシャルストーリーを何度か書かせる		・ソーシャル・ストーリーを書かせる
9	正しいリズムをあんぱんマンのリズム 違うリズムをバイキンマンのリズムと名付け、どちらが正しいか選ばせる	和太鼓 ふざけて違うリズムを叩く	
	ステージ上の子供達に、セリフを促すようにさせる	スペイン語劇のセリフ ふざけて「靴がぬげちゃった」と言う	
	アンパンマンVSバイキンマンポイントカードを作成		<ul style="list-style-type: none"> ・学習発表会詳細スケジュール表を作成 ・鑑賞態度用レッドカード作成

	プログラム	昴の活動	当日の作戦	昴の行動
9:30	あいさつ	見る・聞く	詳細なスケジュール表 静かに着席をするための絵指示カード・できたことの確認カード（ご褒美ポイントシール付き）位置シールを用意し、補助の先生が確認指示していく	座席についていられた
9:35	和太鼓	シンバルを叩く	全体時間スケールを見ながら演奏 補助の先生がポイント指示	完璧な演奏ができた
9:45	スペイン語劇	1番最後「ア・ミ・メ・グスタン・ロスアルボレス」とセリフを言う	1番最後に言う ステージ下の真ん中の位置まで出てきて言う スムーズにセリフが出てこない時は、他の子供達が声をかける	セリフを言い出す前に「靴がぬげちゃった」と言い、子供達に促されて、正しいセリフを言った
10:00 10:10	英語劇 ソーラン節	見る・聞く	緊張している様子だったのでリラクゼーションのタオルを渡した	自分の席について、比較的静かに、問題なく見ることができた
10:25	休憩		息抜きの時間とする	ブランコをしていた
10:45	音楽発表	「コンドルは飛んで行く」の大太鼓	昴用楽譜	立った状態、補助なしで、最初から終わりまで間違えずに全て演奏できた。 他の学年の演奏も静かに聞いていることができた。
11:10	全校劇	効果音で、打楽器を叩く 終わりに、「気をつけ礼」を言う	パワーポイント台本をクリックしながら、劇の流れを追い自分の効果音を入れるところを確認していく 補助の先生がポイント指示 セリフが出ないときは子供達が促す	効果音はほぼ、完璧にできた最後のセリフは、皆の前に出たものの、言い出せず、皆に促されると一旦「いやだ」と大きな声でいったものの、その後「気をつけ礼」を言って終わることができ、終わった後のパニックもなかった。
11:40	全体合唱	「花祭り」「ふるさと」を全員合唱する	歌詞に沿ったイラストの入った歌詞カードを見せる予定だったが、忘れた	声を出して歌うことはできなかったが、その場にいられた
11:50	終わりの言葉	見る 聞く		静かに席についていることができた



トークン表

本番の日までシールを貼っていく



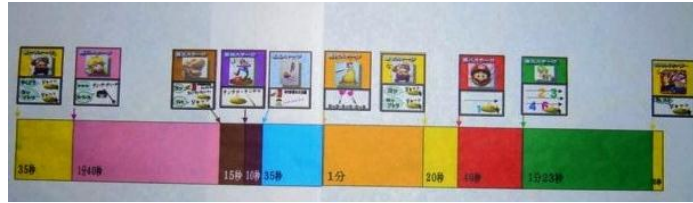
劇の台本

綴じてあったものをつなげ一枚にする。わかりにくト書きはなくし自分が効果音で入る部分を色と写真で示した



学習発表会までの道のり

本番までの練習日程表



和太鼓全体時間スケール

入る箇所が飛び飛びでわかりにくかったので全体の中のどの辺りではいるか視覚的に表わした



和太鼓個人練習

ビデオをみながら個人練習



演奏コーナー

本番の場所、ステージ上には上がりたくないなのでステージ下で皆が見える場所にコーナーを設ける

本番スケジュール表

片付けや移動、鑑賞など細かく記述したどこまでできているのかわかりやすい工夫をした



レッドカード

本番に客席で他の子供の発表を鑑賞する時に使う



正しいリズムカード

ふざけてリズムをたたくようになったので、正しいリズムカードを示すようにした



劇の効果音 本番

パワーポイント台本の流れと先生からのポイント指示で効果音を入れる

スペイン語劇

劇の最後に中央に出てセリフを言う



昴の行動の評価・分析・考察

内は 2004 年の評価・分析・考察

以下は 2005 年の様子・分析

やるべき場面に 100%参加できた。

【要因】

全校劇

- ・昴が「スーパーマリオ」に熱中していて、自分は「マリオだ」と決めこんでいるのを利用し、体育の時間マリオ帽をかぶらせて課題をやらせようとした取り組みを劇に取り入れたこと。昴は「マリオになれることが楽しかった」と言った。
- ・セリフが分散していると、自分が出る場面の理解が難しく自信が持てず、注意も散漫となってしまうと思われるので、セリフを絞って「なんとしてもここはだすぞ」という場面にしたのがよかったのでは。
- ・その絞った場面において、
 - ・セリフが、TV番組などで馴染み、すでに習得済みの得意なものであったこと
 - ・マリオコールのように、のせられるとやってしまう習癖を利用したこと
 - ・また、コールが「ここでセリフを言っても間違いがない」とわかる合図になっていたこと
 - ・ワリオに変身することも目で見てわかる合図になり、また大変興味のあるキャラクターの登場なので、「これは自分の場面だ」という意識を持てたのでは
- ・先生・子ども達が昴の行動、要求、嫌なこと、できること、できないことなどを理解しているので、無理なく入れてあげられたこと。
- ・皆の理解で、本人も安心感、信頼感を持っていたこと
- ・他の子どもと一緒に列の中で立つということを強要せず、床に座っていてもよいとしたこと

音楽

- ・個人練習を通じて、自信があったのでは、
- ・個人練習ではメロディーを歌ってあげて合わせ、全体とあわせることを目指して練習させたこと
- ・分からなくなった時に補助の先生に確認できるという安心感があった
- ・楽譜を見れたこと。特に演奏中、一生懸命楽譜を追い、一回入るポイントを逃した時に補助の先生に楽譜を指して「ワカラナイ」と訴えていた様子を見ると、楽譜に従って演奏することにかなり自信をつけてきているのではないだろうか。また、演奏のない部分も楽譜に組み込んであって、そのつど「演奏オワリ」とならない
- ・ステージ上で演奏したくないなら、下でもよいという転換や、演奏のない時はいすに座っていてもよいとしたことなど

やるべき場面に 100%参加できた

【要因の予測】

- 和太鼓 ・練習では、必ずしも全員の演奏に加われる時ばかりではなく、遠巻きに聞いているだけということも多かったが、これまでの経験や、ソーシャルストーリーによるインプットで「本番では

入らなくてはいけない」ということがわかってきているのではないだろうか。

- ・個人練習やビデオを見ながらの練習で全体の流れが見通せた
 - ・全体時間スケジュールや、部分別楽器などで「全体の流れ」「今どこをやっているか」「入るポイントはどこか」を視覚的にわかりやすくしたこと
 - ・練習の機会の多さ
- 劇
- ・昨年劇に参加できた自信
 - ・興味のあるコンピューター教材を手元で操作しながら進められたこと
 - ・オペレッタ構成になっていたので、歌により場面を把握しやすかった
 - ・台本の音読や絵本の音読

昨年までは、客席にいることができず、ずっと砂場かブランコにおり、自分の出の時だけ皆に促されてちょこちょこっと戻って来るという状態だったのが、客席で見る時間も全て参加ができた。

【要因】・普段の学校生活の中でスケジュール表やソーシャルストーリーを用いて事前にどんなことがおこるのか確認させてきた積み重ねで、昴の中で学校生活や行事に対して見通しが持てるようになってきているのではないだろうか

発表ができてそのあと大騒ぎか大泣きして退場していくという状態だったのが、動揺せずに終わった。

【要因】・セリフの後に「やったー」というほかの子ども達からの拍手喝采が入り、出来た時に褒められないと不安になるという習癖がその場で解消された

音楽や劇では自分の演奏演技の担当以外の間に、ステージの上をフラフラ歩き回っていたのがステージ上でいすや床にすわって、一ヶ所にいられる時間が長くなった。

【要因】

- ・セリフや演奏のない時はいすに座ってよいとしたこと
- ・普段の学校行事の中で㊦印を置けばそこにいられるようになってきていたので、学習発表会に際しては練習の時から昴用のいすを決め（緑色のスチールイス）そこにすわることがこだわりになるように座らせ、本番にもそのいすを用いた
- ・列の中でなく子ども達の輪の中に座らせたこと

発表のあとの動揺興奮もなく、ステージを歩き回ったりすることもなく、大きな声を出すことも少なく、客席で目立たず見ていることもできた。

【要因の予測】

- ・昨年できた自信、様子がわかってきたこと
- ・これまでのスケジュール表は、おおまかすぎてスケジュール表にないこともたくさんおこってくるので、その少しずつの違いがたまって爆発していたことも考えられるので、準備、片付け、何をするかをことこまかに書いたスケジュール表を用意した。
- ・セリフがない場など、どうしてよいかわからないという場を少なくした。（何かをさせている、ソデにいてセリフの時だけ出る）

見ている時に独り言、大きな声を出すガタガタ音をさせる行動が止まらなかった。
特に総合の発表でコンピューター操作を担当した場面では、独り言やピョンピョン跳ねる行動が目立った。
自分の発表のステージの間にフラフラ歩き回る行動は少なくなったものの、一般的に見るとまだかなり目立つ。

- 【要因】
- ・コンピューターの画面が切り替わるのが面白く嬉しく、興奮した
 - ・画面の切り替えを早くしたいが待たなければいけなかった
 - ・緊張していた
 - ・デジカメ写真で自分の行動を見せられたり、指示カードで出されて（だされなくても）静かにしなくてはいけないことがわかっているのだが、出してしまう

見ている時の音、声をだす行動が格段に減った。フラフラ歩き回ることもなかった。

【要因の予測】

- ・どういう行動がいけないのか本人がよくわかってきている
（日頃の指導、ソーシャルストーリー、レッドカードなどで）
- ・昨年かなり参加できたことで、行事に対する見通しが持てているのではないか
- ・学習発表会への参加を促すソーシャル・ストーリーや、ポイントカードや、カレンダー表示などに意識的に鑑賞態度の項目を増やしたこと
- ・指導側が、出し物に参加できることと同じくらい鑑賞態度をよくすることの指導もしなくては
いけないと目が向いたこと

取り組みの評価

劇に関して

使える手段や資源は全て使ったという感じ。
結果、昴がそこで入れなくても劇の流れには影響がない、昴を出すための目的の昴用の一場面を設定したという形になったが、ルールを理解できず、人と一緒にできない自閉症児を統合していく場合、
こういう取り組み方は大変有効ではないか。
昴をいれるための場面に使う特殊な手段を少しずつ減らして、できるだけ普通の状況に近い状況でも
入れるようにもっていくことと、少し手段を使うが「ここは入れよう」という場面数を各場に散らし
ていれていくこと（体育でここは昴の出番だと必ず戻ってきてやりたがることを散らして入れている
ように）が次回の課題になってくるのではないか。

今年は、キャラクターの使用も含め、昨年ほど特殊なやり方をしたという感じではなく、また、参加のポイントが分散していても取り組ませることができた。

効果音のポイントが各場に分散していても全編通して完璧にできたのは台本の工夫が有効だったの

ではないか。スペイン語も花さき山も最後に昴のセリフの場を持ってきたが、場の設定としては本人にもわかりやすく、前後の流れをこわすリスクも少ないよいタイミングだったのではないか。いずれにしても、全体の「いつ、どこ、だれ、どうやって、どこまで」が視覚的にあるいはなんらかのサインでわかるようにしてやると見通しが持て、参加もできるし、ストレスも少なくなる。

これまでだと、終わりの挨拶をした後で、大泣きしたり、いすをひっくり返したりする行動が見られたが、今回は「いやだ」と口にだしながらセリフを言ったにもかかわらずそういうパニックがなくすんだのは、本人にとってストレスが少ない形でできたということの現われだと思う。

音楽・和太鼓に関して

全体とあわせるための個人指導を充分おこなうこと、全体の流れ（演奏しないところも、歌の部分も）を一枚の中に組み込んだ楽譜を用意し、楽譜に従ってやらせることなどでかなり参加させられるのではないか。



個別指導の成果

今年の音楽場合は、楽譜をみながら「叩きっぱなし」というパートだったので、わかりやすかったかもしれない。

逆に和太鼓は演奏しない部分が多く、始めとまどいがあった。和太鼓の演奏を一枚楽譜に作るのは難しかったので、全体の流れを一枚に表わした全体時間スケール表を作ったが、効果あったと思う。まさに昨年の提案（上記）を証明したことになった。

鑑賞態度に関して

興奮して、スケジュール表（できたことを確認していくカード）と静かにする指示絵カードがいていることがわかっているのだが目に入らない状態だった。

自分の騒いでいる場面のデジカメ写真をみると、ハッとして「いけない」と思うようで一瞬は効くのだが、すぐ忘れて興奮してしまう。

こういう場面では指示カードよりリラクゼーショングッズでのほうがまだ少しは落ち着かせることができるように感じた。

お客さんが大勢集まり、暗く、暑い中、長時間客席にいないといけないという場面の条件を整えて練習させることはなかなかできないので、前もつての指導も難しい。

鑑賞させられる発表自体が（昴だけでなく、小さい子供の）長時間の興味をひけるものではなかったからというご指摘もあった。



この反省をしたことで、本年の鑑賞態度に対する取り組みの意識が高まった。

日頃から、ソーシャル・ストーリーや、よい昴悪い昴カードや「なまはげ作戦」で生活態度の問題の改善に取り組んできていることがいかされたといえる。

効果の程はわからないが、準備片付けなど細かいことも書き込んだスケジュール表が今後もこういった（狭い空間で限られた時間で行なわれる）行事には必要かもしれない。

アドバイザーからの指摘

このところ、いろんなことが出来てきているので、本人にも自信ができてきたのでしょうか。こうすればいいんだと見通しが持てるようになってくれば、多少のストレスも我慢できるので、この場面ではこうすればいいんだ・・・と自分に言い聞かせながらその場にのぞんだのではないかと思います。

今年の学習発表会の出来栄え、そして、それにいたるまでの綿密な計画はすごかったですね。恐らく、ここぞと言う時にどう力を出せばいいのかの学習は、この2年間にわたる経験で、ほぼ身につけたのではないかと思います。昴君の心の中で、自分が大きくそだっていると思います。これもお母さんの熱心な研究心があったからに他なりません。これからも色々なことはあるとは思いますが、これでひとまず、昴君の方も、お母さんの方も、新しい問題に対処できる自信がついたと思います。特に今回は、大友先生とお母さんの共同作戦が効を奏したのではないかと考えています。学校が、母親や父親を共同の療育者として迎え入れ、同じレベルで話し合いを持つことができ初めて、TEACCH が成功するのだと思っていましたが、まさにそれを実行して下さいました。

今後の課題

鑑賞するときや、自分の発表の途中で大声をあげる、独り言を言う、いすをがたがたさせる、ピョンピョンはねる、ステージ上や客席をウロウロ歩き回る、遠くの人に話し掛ける等を少しずつ減らしていきたい。

今回は回りの人にできることは全てやり、本人の力が100%発揮できるような状況を作ってやることができ、本人も持っている力は100%発揮したように思う。その上で出てくるこれらの問題は、本人の自閉症の障害による問題なので減らしてしていくことは大変難しいと思われるが、自閉症や昴のことを知らない人がほとんどの一般社会に受け入れられるためには「うるさかったり、ウロウロして他のお客さんの迷惑になる行動」を減らしていくことは参加させることより重要なことと考えている。

他の子供と一緒に出し物にでられることがつい1番の目標になってしまうが、忘れず鑑賞態度の改善を1番の重点項目においていきたい。

これは、その場だけの対応作戦でなんとかさせられるものではないので、日頃の生活態度学習態度、食事態度（食べる時の姿勢とか、テレビを見る時の態度とか、外出の時走り回ったり、大きな声を出しているのを許しているとか、勝手に自分の行きたいところに行くのを許しているとか）そういうことから改めていかななくてはいけないと思う。

これは、そういう指導をつい忘れてしまう指導側への意識の持ち方の課題でもある。

思い出しても、口先でガミガミ言うだけの指導になっている場合が多い。こういう問題に対し、意識的に作戦、視覚的指示を用意して対応していかななくてはいけない。

また、今回もポイントご褒美制度やキャラクターも使ったが、前回よりは格段に少ない使用だった。今後、ご褒美制やキャラクター使用を意識的に少なくしていくこともできると思う。